Kyoto City Child Rearing Support Center Kodomomiraikan

京都市子育て支援総合センター
こどもみらい館
研究・研修だより

# かがやき

Vol.46
2017
8月

## 第４期研究プロジェクトはこのように進んでいます！

第４期研究プロジェクトも，平成28年度から毎月一回の研究会を重ねながら後半に入りました。春の人事異動などで両プロジェクト共にメンバーの交代があり，新しいメンバーを加えて研究を更に深めています。毎回の討議では「なるほど」と気付くことも多くあり，ここで，その一部をご紹介したいと思います。

### ～子どもの心の育ちの連続性研究プロジェクト～

### テーマ：子どもの心の育ちを共有し，心を育む保育・教育を広げ，実践しよう。～発信～

民営保育園，市営保育所，私立幼稚園，公立幼稚園，民間認定こども園と小学校の先生方が一堂に会して，それぞれの時期に大切にしたい子どもの心の育ちとそれをどのようにつなげていくかについて話し合っています。

**昨年度**　幼児期に大切にしていることが小学校にどうつながっていくのかな？

幼児期には何かが できるようになること以前にありのままの自分でいいんだと思える根本的な自信がまずは大切

「ありのままの姿を認めることが信頼関係を築くことにつながるね」
「そして子どもの自己肯定感や自信につながっていくのを感じるな」
「保育者は子どもに与えてやらせるのではなく，子ども自身が心を揺らして動き出したくなるような援助や環境を大事に考えたいね」
「待つって，必ずこの子は自分のペースでやり切る力があるんだって信じることだと思う」

自分で何でもできる，でももっと自分の方を向いて欲しい子どもって，できること　＝　自信じゃないよね

幼児期に大切にしたいね

子どものありのままの姿を認める　→　保育者の願いを返す　→　子どもをよく見る　→　環境や援助を見直す　→信じて待つ　→　子どもの心が動くチャンスを見逃さない　→　しっかりと向き合う　→　環境や援助を見直す

「間違えたらどうしよう」
「失敗したらどうしよう」
自分を表現する自信がない子どもってどうなんだろう

「小学校の入学式の翌日から担任の私に安心感を持ってくれてるの」
「就学前の先生方にしっかりと受け止めてもらうことで小学校の先生もきっとそうだと思えるんだろうね」
「就学前の先生への安心感が人に対する絶対的な信頼感の土台になっていると思う」
「それって，学びに向かう力の土台だと思うよ」

**今年度**　具体的にどうやって小学校につなげよう？　小学校ではどう育っていくのかな？

小学校としては，申し送りでこんな情報がほしいな

幼児期にエピソード検討した子どもを1年生でも追ってみよう

児童期に大切に育てたいこと，そのための教師の心持ち

①子どもの背景
②具体のエピソードから見えてきたこと
③保育者のねがい

実際にやってみよう

子どもの心の育ちを共有し実践につなげよう

## ～子育て支援研究プロジェクト

# テーマ：気持ちに寄り添う子育て支援

子育て支援者として，また子どもを持つ親としても子育てについての様々な気持ちを出し合いながら，“求められている子育て支援とは何か”について研究を進めています。

## 昨年度

**本当の寄り添う支援って何だろう？**

### 子育て支援の必要性って？

オムツのパッケージに7時間利用可能と記載されていたので，忠実に7時間でオムツ交換していたお母さんに出合った。それは子どもがどう感じる（オムツが濡れて気持ち悪い）ではなく，使用方法を守って使っているということ。感覚よりも情報に左右され，子どもの気持ちを推察するよりも，ルールに沿ったマニュアルで子育てしているのだろう。

子育てに不慣れな親が増え，子どもの育ちを知らず，子育てを見たことがない人が増えているのが現状だ。知らないことにはマニュアルが欲しいと思うのも当然であろう。

子どもの表情を読み取ることが苦手な親が増えていると感じることが多いね。

### 保護者を受け止める支援とは？

自分たちは，子育てで分からないことがあったら，あれか，これかと子どもにやってみることを繰り返し，これだったのかと分かっていく。多くの親は何度も試しながら子育てをしているし，いつも間違わずに子どもの気持ちが分かる親はいない。人が上手くやっているのをみた時，出来ていると思い，出来ない自分を比較してダメだと思うのかもしれないね。

親達は，育児書に書いてあることや，他の親ができることができないと，全てに自信を無くす。子どもの思いを一度で言い当てられる親が良い親ではなく，あれこれとやってみながら子どもの気持ちに寄り添おうとする姿勢の方が親として大切だと伝えてあげたい。

産んだ瞬間，「お母さん」と呼ばれてはいるけれど，今，お母さんになっている途中だ。お母さんになろうという意識を強く持っている段階に，それでいいのよという受け止めをしてもらえないと不安で，とても辛いと思う。園でも親になってまだ3年しか経っていない保護者をありのまま受け止めてあげられているのだろうかと思う。

子育て支援の大事なことは，支援をどうやってするかではなく，保護者に接する時，どのように気持ちに寄り添える支援ができるのかである。

昨年度は，保育園（所），つどいのひろば，児童館などの支援の現場に出向き，実際の親子の様子を視察に伺いました。そして，毎月の研究会ではエピソードを検討して「親子の気持ちに寄り添う」ということが，どういうことかを話し合ってきました。

親の気持ちを受け止めるということが，“親子に支援の場に来てもらうこと”や“話をよく聞くこと”と思われることが多いですが，**本当に寄り添うことは，支援者が，親子の全てを心から肯定的に認めることから始まり**，まずは，「そうだったんだね」「つらかったね」と，**今，ここにいる親子のそのままを受け止めることであろう**ということが，研究会を重ねる中で分かりました。

また，視察を通して，子育て支援は親子と支援者の関係が，支援する，される（教える，教えられる）という関係だけではなく，**お互いを尊重し認め合える人との関係が基本ではないか**と気付きました。

## 今年度

**子育て支援に関わる人たちにこの気付きを届けるにはどうすればいい？**

親たちの思いに気付くために，「感じる心を持とう」と題したミニ事例を作成して，グループ討議をしよう。

**事例を集めて，支援者たちの話合いを広めたい。**

### 発信

親の育ってきた過去や置かれている現在の状況を見つめ，親たちの心を考える時のヒント集をつくってみよう。

**”気持ちに寄り添う子育て支援”を実践しよう。**

平成29年度 共同機構研修会　第1回

平成29年4月26日（水）

京都市保育士会共催

# 今，本当に子どもが必要としているものは何か

講師　鯨岡　峻　京都大学名誉教授

子どもが本当に必要としているものは，心の育ちであり，そのための大人の愛情です。この結論そのものは別に目新しいものに見えないかもしれません。実際，心の育ちも，そのための大人の愛情も，みな大事なものであるという認識は誰にもあるはずです。しかし，それが何よりも優先されるべきものであると理解されているでしょうか。さらに，保育の営みにおいて，その愛情をどのように子どもに向けるかについて，また「心の育ち」をもたらす保育の営みはどのようなものであるべきかについて，真剣に考えられているでしょうか。

子どもの育ちを目に見えるところで追いかけると，あれができた，これができたというところに目が向きますが，子どもがこれから大人に向かって成長していく上で欠かせないものとして重視してほしいのは，周りの大人に対する子どもの信頼感や安心感と，子どもが自分について抱く自己肯定感です。信頼感も自己肯定感も外部から「褒める」という具体的な行為が与えられることで，これらの心が育つというふうにはなりません。大人の「愛している」という思いが子どもの心に流れ込んで，自分は愛されていると思った子どもは，愛してくれる人への信頼感を育む一方，自分は愛されている，自分は大事にされている，自分は大事なのだというかたちで自己肯定感をもてるようになります。

いま，「非認知的な力」を育てるということに注目が集まっています。私は，子どもの心の中に周りの大人への信頼感や自分への自己肯定感が本当に育っていれば，「非認知的な力」は必ずそれにくっついてくると考えています。そして，子どもに「非認知的な力」が育っていないように見えるのは，単にその力を育成するための努力が子どもに向けられていないからではなく，それらの力が育つための前提となる，信頼感や自己肯定感が十分に育っていないからだと考えています。

そして，大人への信頼感と自分への自己肯定感が立ち上がるとき，そこに教える働きがうまく絡めば，大人の願う力が育ってくるのだと考える必要があります。指示，命令の形で「教え込む」ことは決して本当の生きる力に結びつきません。大人の教えたいという思いと，子どもの学びたいという思いが結びつくときに，もっとも願わしいかたちの「教え―学び」の関係が生まれます。このとき，子どもは学ぶことが楽しく，また嬉しいと思えるでしょう。

講義の詳細は，要録ページをご覧ください。　要録ページへ

# ～共同機構研修をDVDでご覧いただけます～

こどもみらい館では，講師の方のご了解をいただき，講演内容のＤＶＤ・ビデオを職員研修に限って貸し出しています。

こどもみらい館ホームページ（http://www.kodomomirai.or.jp）をご覧になるか，総務課（tel.254-5001）までお問い合わせください。

※今後も，順次貸出予定です。また，過年度（平成16年度～）に開催した講義のDVD･ビデオの貸出も行っています。どうぞご利用ください。

## 貸出方法

1. 電話で借りるＤＶＤの予約をします
2. ＤＶＤを受け取る際には利用申込書を提出して下さい
3. 一度に５本まで、期間は１ヶ月借りることができます
4. 利用報告書を添えて返却してください

詳しい方法や必要な用紙はこどもみらい館ＨＰ共同機構研修のページをご覧ください

平成29年度 共同機構研修会　第2回

（公社）京都市私立幼稚園協会共催

平成29年5月26日（金）

# 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

講師　津金　美智子　名古屋学芸大学教授

今回，改訂・改定された幼稚園教育要領や保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領には「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（健康な心と体，自立心，協同性，道徳性・規範意識の芽生え，社会生活との関わり，思考力の芽生え，自然との関わり・生命尊重，数量や図形，標識や文字などへの関心・感覚，言葉による伝え合い，豊かな感性と表現）」が示されました。これは，子どもたちが未来社会を切り拓くために必要な生きる力の基礎となる「資質・能力」が育まれている５歳児修了時の具体的な姿として１０の項目で整理されたものです。

幼児期に育みたい資質・能力とは，「知識及び技能の基礎」「思考力，判断力，表現力等の基礎」「学びに向かう力，人間性等」であり，幼児期にふさわしい生活や遊びを通した総合的な指導の中で一体的に育んでいくことが重要です。これまで幼児教育が大切にしてきた「心情・意欲・態度」を土台として育まれていきます。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿は，これまでの５領域を１０の姿に変えたわけではありません。また，個別に取り出して指導するものでもありません。もとより幼児教育は環境を通して行うものであり，あくまでも子どもの自発的に取り組む遊びの中でこれらの姿が育っていくことに留意しなければなりません。５歳児だけでいきなりこの姿が育つのではなく，０・１・２歳児の保育の充実が，３・４歳児へとつながり，その指導の積み重ねを通して育っていくということを踏まえてください。また，これらは到達目標ではなく育つ方向としての姿であり，５歳児後半の評価の手立てともして，指導の在り方を見直してください。そして，この姿を小学校の先生と共有し、発達や学びのつながりについて理解し合うことが大切になります。

この改訂・改定を機に，各園での遊びや活動を振り返り，子どもたちが自発的に取り組むものになっているのか，その中で子どもたちはどのようなことを学んでいるのかを捉え直していくことが重要です。これまで以上に，遊びを深く見つめる先生方の耳や目，頭，感性が問われていると思います。平成29年度は，今の要領や指針を完成させる時でもあり，新しい未来に向かって創造していく大事な時期でもあるのです。

講義の詳細は，要録ページをご覧ください。　要録ページへ

## ★共同機構研修会にご参加いただけなかった方へ★
## ～こどもみらい館ホームページで講義要録をご覧いただけます～

**忙しくて共同機構研修会に参加できなかった方，当日の話をもう一度振り返って自己研鑽したい方，また各園所の職員研修などでご利用ください。こどもみらい館ホームページ（http://www.kodomomirai.or.jp）研修・研究ページの共同機構研修からご覧いただけます。**

平成29年度の要録とDVD

◎　鯨岡 峻　京都大学名誉教授

【今，本当に子どもが必要としているものは何か】

（4月26日実施分）

◎　津金 美智子　名古屋学芸大学教授

【幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿】

（5月26日実施分）

DVDのみ

◎　乳幼児揺さぶられ症候群

※今後も順次講義要録を作成する予定です。また，過年度（平成16年度～）に開催した講義の要録もご覧いただけますので，どうぞご利用ください。

子どもを育む喜びを感じ，親も育ち学べる取組を進めます。「京都はぐくみ憲章」より

この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！

発行日　平成29年8月21日
発行者　京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883　中京区間之町通竹屋町下る楠町601-1
Tel (075)254-5001　Fax (075)212-9909
URL　http://www.kodomomirai.or.jp